

J R 総連通信

2023年10月6日 No.1680

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

連合第18回定期大会

JR総連・山口委員長発言！



※写真は連合提供

10月5～6日、連合「第18回定期大会」が都内で開催されました。

JR総連・山口委員長が参加し、運動方針(案)について以下の内容で発言しました。

- ① 23春闘では、要求を大きく下回る妥結結果を余儀なくされた単組もあったが、『統一闘争』においては大きな成果を見出すことができた。JR総連は24春闘でも『統一要求・統一闘争』を掲げ、職場の運動づくりにこだわっていく。
- ② 連合本部が、24春闘では目に見える形で各産別の共闘体制をつくり、足並みをそろえてヤマ場に向かっていくたたかいをつくり、相乗効果につなげることを要請する。
- ③ 組合員からは『連合の指導性をもっと発揮すべきではないか』という声が多くある。
- ④ 春闘の原点は、連合各構成組織が一丸となって経営側と向き合うこと。労働組合の組織率が低下の一途をたどっている今、連合の団結力を示し、労働組合、また労働組合運動とはいかなるものかを社会に訴えていくことが必要である。
- ⑤ 職場の組合員の期待に応える連合運動とは、各産別の措かれた状況が違うという難しい現実の中で、指導性を発揮し、ともにたたかったという実践を、互いに共有し、真の団結をつくりあげ、課題解決のための強い力につなげていくことである。JR総連も微力だが、ともにたたかきを担い、連合労働運動の強化にむけて力を発揮していくことを表明する。

これを受け連合・清水事務局長は、

- ① 春季生活闘争と組織拡大・強化は、いわば連合にとっては車の両輪、相乗的に動くことが、組織の拡大・強化につながる。そして交渉にも繋がり、賃金の具体的な引き上げにつながる。
- ② 相乗効果を高めるための共闘体制について、議論を深めてまいりたい。賃上げの原動力、それは職場にある。真摯な協議が大事。一体となってたたかいていく体制づくりということについて、先ほどご指摘があった。議論していきたい。
- ③ 労働組合の必要性を訴えていく事が必要だという意見があった。この間よく、若手の皆さんと話をすると、「労働組合に入っていると、なんかメリットはあるんですか？」と聞かれる。私は逆に「入っていないことは非常なデメリットなんですよ」と常に訴えるようにしている。入ったらプラスになるっていうことではなくて、私たちが築き上げてきた労使の交渉に基づいた賃金や労働条件、そういった勝ち取ってきたもの、それを知らないということは非常にデメリットなんですよということを若い人たちによく伝えている。私たちが築き上げてきたものを大事にしていきたい。

と、山口委員長の発言に基づいて答弁がされました。

JR総連の旗のもとに結集し、

連帯・共闘をつくり出そう！